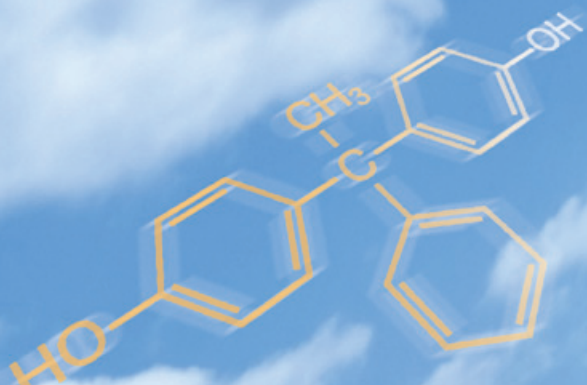
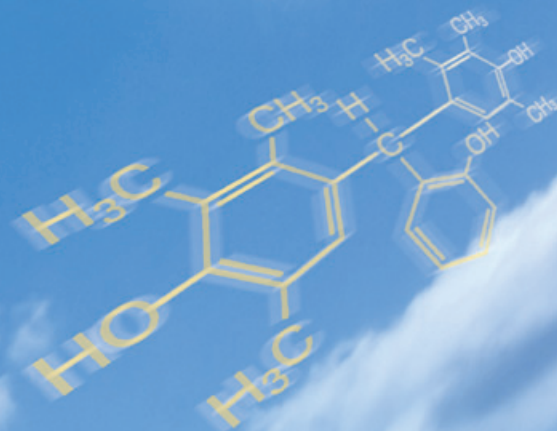
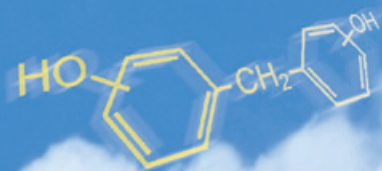


第 85 期

# 中間報告書

平成25年4月1日～平成25年9月30日





代表取締役社長

船越良幸

### 当社の経営ビジョン

当社は、経営ビジョンとして、次の「経営理念」と「目指すべき企業像」を掲げております。

#### 【経営理念】

企業活動を通して、社会の持続的発展、国民生活の福祉増進に貢献するとともに、お客様、従業員、株主及び地域社会から真に信頼される存在であり続ける。

#### 【目指すべき企業像】

独自のフェノール誘導品合成技術をもとに、他社が真似のできない製品を創出し、最高のサービスにより提供するグローバル・ファインケミカル・スペシャリスト

株主の皆様には、平素より格別のご高配とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、当社グループは、平成25年9月30日をもちまして、第85期（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）の上半期を終了いたしましたので、ここにその概況をご報告申し上げます。

### 当社グループの事業活動

当社グループは、上記の経営ビジョンのもと、現在、トリメチルフェノール（ビタミンE原料）を主力とした“クレゾール誘導品”、“フォトレジスト材料”、“ビフェノール”、“特殊ビスフェノール”及び“ビスフェノールF”の5事業をコア事業と位置づけ、これらの製品を中心に、主として情報・通信、自動車、医薬などのニッチ分野向けに、国内外において積極的な事業活動を展開しております。

当社グループは、より高度化・多様化する市場ニーズに的確に応えるため、当社が創業以来培ってまいりました独自の技術を活かし、高い品質を有する特徴のあるファインケミカル製品を今後とも開発・提供し続けてまいります。

### 当上半期の概況

当上半期においては、新興国経済の成長鈍化や欧州の財政問題など海外経済の下振れ懸念があったものの、わが国経済は、政府の経済政策や金融政策に対する期待感が

ら、円高の是正や株価の上昇が進行し、緩やかながらも景気回復基調で推移しました。

しかしながら、当社グループにおきましては、原材料価格の高騰により収益が圧迫されるとともに、当社主力製品と関連のあるIT関連機器・デジタル家電分野において薄型テレビやパソコン等の需要が依然として低調のまま推移するなど、引き続き厳しい事業環境のもとに置かれました。

このような状況のなかで、当社グループは、収益の改善と向上を図るため、既存コア製品の拡販と新規製品の開発促進・市場投入の早期化に注力するとともに、和歌山工場の基盤強化を始めとした経営全般にわたるコスト競争力の強化に全力を挙げて取り組んでまいりました。

その結果、当社グループの当上半期における売上高は77億92百万円（前年同期比0.3%増）となり、営業利益は7億69百万円（同96.6%増）、経常利益は7億30百万円（同89.4%増）、中間純利益は4億27百万円（同145.9%増）となりました。

なお、中間配当につきましては、前年同期と同額の1株につき6円とさせていただくことといたしました。

## 今後の事業環境の見通しと当社グループの取り組み

今後の経済環境は、新興国経済の減速や欧米における財政問題など海外経済において懸念材料があるものの、国内景気が引き続き回復基調で推移するものと予想されます。しかしながら、当社グループを取り巻く事業環境は、当上半期と同様に、原材料価格の上昇やIT関連機器・デジタル家電の需要低迷による収益低下が懸念されるとともに、市場のグローバル化の進展により競合他社との競争激化が予測されるなど、依然として先行き不透明な厳しい状況が続くものと予想されます。

このような情勢のもと、当社グループは、変化する事業環境に機動的に対応しつつ、競争力・収益力のある磐石な経営基盤を構築するため、企業存立の基盤である安全・安定運転の確保に万全を期すとともに、次の重点課題について総力を挙げて鋭意取り組んでまいり所存であります。

- ・ コア製品を中心とした既存事業の拡充強化
- ・ 和歌山工場における“BEP60プロジェクト”（注1）の推進を始めとした全社全部門での合理化・効率化の徹底
- ・ 新規事業の創出と新規製品の上市加速化

また、当社の連結子会社であるHi-Bis GmbH（ハイビス社）では、高耐熱性の特殊ポリカーボネート樹脂原料である特殊ビスフェノールの需要拡大に対応するため、現在、平成26年3月の完工を目前に製造設備の増強工事（注2）を行っており、当社といたしましては、その完遂に向けて、同社と緊密に連携しながら、建設及び運転業務について積極的な支援を行ってまいり所存であります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

### （注1）“BEP60プロジェクト”

生産コスト競争力を強化するため、和歌山工場の損益分岐点稼働率60%の達成を目指して現在工場の全部門において諸施策を展開中

### （注2）Hi-Bis GmbH（ハイビス社）における特殊ビスフェノール製造設備増強工事の概要

- ・ 増強生産能力 5,000トン/年（増強後は10,000トン/年）
- ・ 増強内容 現有製造設備の隣接地に新たな製造設備を設置
- ・ スケジュール 着工：平成24年10月  
完工：平成26年3月予定（平成26年7月営業運転開始予定）

## 事業の概況（連結）

### ■ 主要製品及びその用途

部門	主要製品	主な用途
化学品	■クレゾール誘導品 トリメチルフェノール 精製BHT メタクレゾール 3M6B	ビタミンEの原料 酸化防止剤 医薬品、農薬の原料 酸化防止剤の原料
	■ビスフェノール	液晶ポリマー（LCP）の原料
機能材料	■ビスフェノールF	特殊エポキシ樹脂の原料（難燃性積層板、粉体塗料）
	■フォトレジスト材料	半導体・LCD（液晶ディスプレイ）製造用材料
	■感光性ポリイミド材料	感光性ポリイミド（半導体素子の表面保護膜用途向け）の材料
工業材料	■特殊ビスフェノール	特殊ポリカーボネート樹脂の原料（自動車用部品、光学用電子部品）
	■ハイビス社製品（特殊ビスフェノール） ■受託品	特殊エポキシ樹脂の原料（エポキシ封止剤・積層板） 特殊ポリカーボネート樹脂の原料（自動車用部品）

### ■ 部門別の販売状況

#### 化学品部門（売上高構成比 41.7%）

売上高 32億50百万円（前年同期比 5.5%減）

営業利益 72百万円（前年同期は営業損失 1億16百万円）

#### ■ トリメチルフェノール

クレゾール誘導品の主力製品であるトリメチルフェノールは、家畜飼料の添加剤に使用されるビタミンEの原料として、主に中国及び欧州向けに輸出されております。

当上半期においては、需要の低迷により販売数量が前年同期に比べ若干減少したものの、原料価格の値上がりや為替変動の影響等により販売価格が上昇したため、売上高は前年同期を上回りました。

#### ■ その他のクレゾール誘導品

（各種樹脂添加剤の原料「メタクレゾール」、酸化防止剤の「精製BHT」等）

前年同期においては、三井化学株式会社の爆発・火災事故によりクレゾール誘導品の主原料であるメタパラクレゾールの供給が停止したことに伴い、当社のユーザーからの在庫確保を目的とした出荷

要請に応えるべく、メタクレゾールや精製BHT等の在庫放出を含め高水準の出荷を行ったことから、前年同期における販売数量は例年に比べ大幅に増加しました。また、当上半期においては、これらの製品の需要が低迷し販売が不調であったため、当上半期における「その他のクレゾール誘導品」全体の売上高は、上記の特殊要因により大幅に販売数量が増加した前年同期を大きく下回ることとなりました。

#### ■ ビフェノール

ビフェノールは、パソコン・携帯電話等のIT関連機器やデジタル家電の電子部品に用いられる耐熱性・精密成形性に優れた液晶ポリマー（LCP）の原料として使用されております。

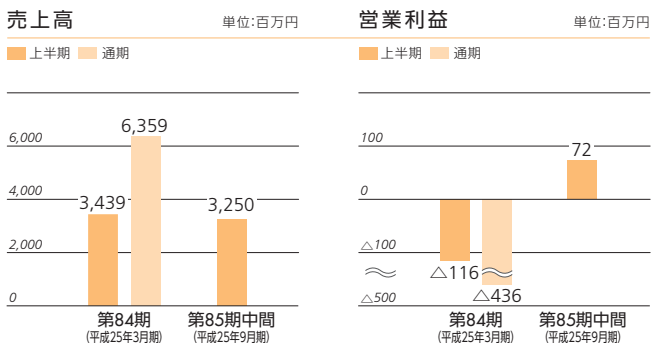
前年同期においては、ユーザーサイドでの大幅な生産・在庫調整により需要が大きく減退しましたが、当上半期においては、本格的な需要回復には至らないまでも、前年同期にみられた大幅な生産・在庫調整が行われなかったことから、販売数量が増加し、売上高は前年同期を大きく上回りました。

## ■ ビスフェノールF

ビスフェノールFを使用したエポキシ樹脂は、加工性と金属接着性に特に優れており、ノンハロゲンタイプの難燃性積層板や粉体塗料等の土木・建設材料用途に使用されております。

当上半期においては、土木・建設材料用途向けの需要が概ね堅調であった一方、積層板等の電子材料向け用途において需要が伸び悩んだため、販売数量は若干減少しましたが、原料価格の値上がりにより販売価格が上昇したことから、売上高は前年同期を上回りました。

この結果、化学品部門の売上高は32億50百万円（前年同期比5.5%減）、総売上高に占める割合は41.7%となり、営業利益は72百万円（前年同期は営業損失1億16百万円）となりました。



## 機能材料部門 (売上高構成比 20.9%)

売上高 16億27百万円 (前年同期比 6.1%減)

営業利益 3億27百万円 (前年同期比 19.0%減)

### ■ フォトレジスト材料

フォトレジスト材料は、半導体及び液晶ディスプレイ (LCD) の製造過程で使用されております。

フォトレジストの需要先であるIT関連機器やデジタル家電分野では、薄型テレビやパソコン等の需要が当上半期においても依然として低調のまま推移したことから、当社のフォトレジスト材料は、半導体用及びLCD用のいずれも販売数量が減少し、売上高は前年同期を下回りました。

### ■ 感光性ポリイミド材料

感光性ポリイミド材料は、半導体素子の表面保護膜に使用される感光性ポリイミド樹脂向けの材料であり、従来品の添加剤のほかに、新規用途向けとして開発した感光性ポリイミド樹脂用原料は、ユーザーのニーズに応えた高付加価値商品として、今後の需要拡大がおいに期待されております。

当上半期における感光性ポリイミド材料 (添加剤向け) の販売は、世代交代の影響により引き続き低調のまま推移したため、売上高は前年同期を下回りました。

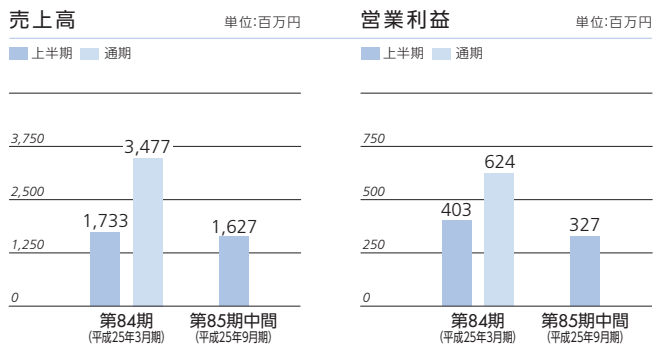
### ■ 特殊ビスフェノール

当社の特殊ビスフェノールを用いた樹脂は、優れた耐熱性や光学特性を有することから、この特殊ビスフェノールは、特殊ポリカーボネート樹脂 (自動車用部品、光学・電子部品用途向け) や特殊エポキシ樹脂 (エポキシ封止材・積層板用途向け) の原料として使用されております。

## 事業の概況（連結）

特殊ビスフェノールの需要は、引き続き光学部品用途向けを中心に堅調に推移したため、当上半期の売上高は、前年同期を上回りました。

この結果、機能材料部門の売上高は16億27百万円（前年同期比6.1%減）、総売上高に占める割合は20.9%となり、営業利益は3億27百万円（同19.0%減）となりました。



## 工業材料部門 (売上高構成比 36.4%)

売上高 28億40百万円 (前年同期比 12.3%増)

営業利益 6億55百万円 (前年同期比 112.2%増)

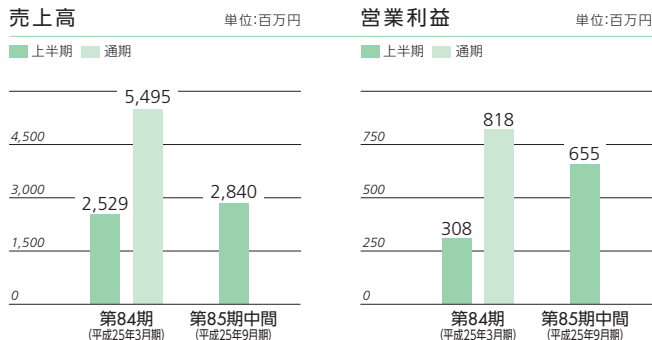
### ■ 特殊ビスフェノール

自動車用部品向けの特殊ポリカーボネート樹脂の原料に使用される特殊ビスフェノールは、主に海外生産拠点のハイビス社において製造販売されており、当上半期においては、引き続き需要が堅調に推移するとともに、為替変動の影響により販売価格が上昇したため、売上高は前年同期を上回りました。

### ■ 受託品

受託数量が減少したため、売上高は前年同期を下回りました。

この結果、工業材料部門の売上高は28億40百万円（前年同期比12.3%増）、総売上高に占める割合は36.4%となり、営業利益は6億55百万円（同112.2%増）となりました。

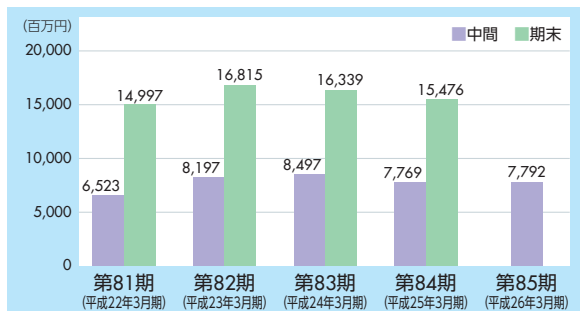


### ■ その他部門

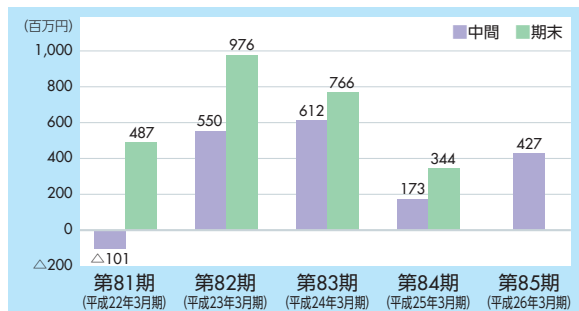
販売用役等のその他部門の売上高は74百万円（前年同期比11.2%増）、総売上高に占める割合は1.0%となり、営業利益は21百万円（同50.8%増）となりました。

## 財務ハイライト (連結)

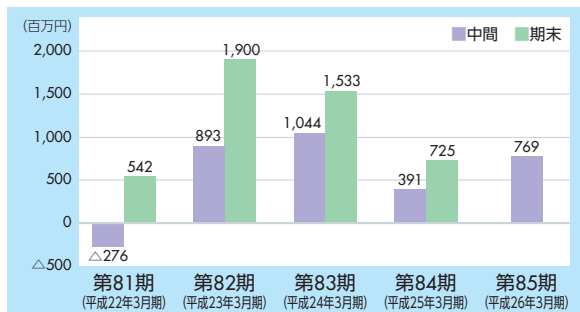
### ● 売上高



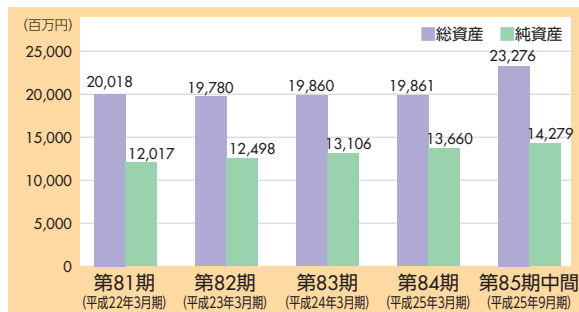
### ● 中間 (当期) 純損益



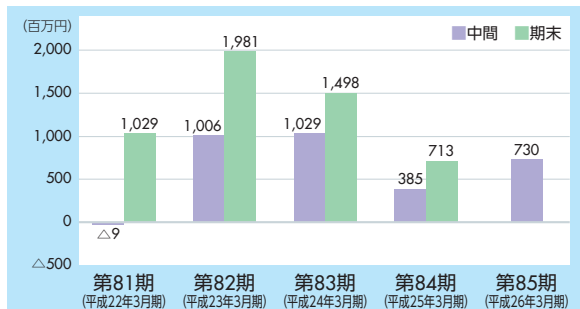
### ● 営業損益



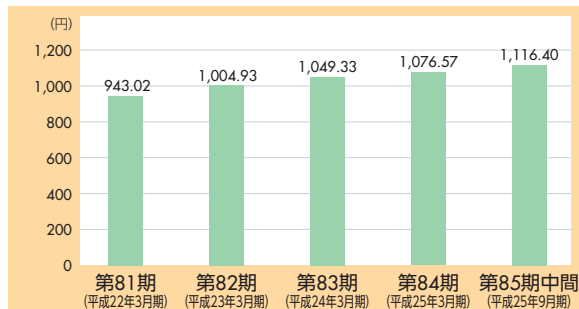
### ● 総資産・純資産



### ● 経常損益



### ● 1株当たり純資産



# 連結財務諸表

## 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当中間期 (平成25年9月30日現在)	前 期 (平成25年3月31日現在)	科 目	当中間期 (平成25年9月30日現在)	前 期 (平成25年3月31日現在)
<b>(資産の部)</b>			<b>(負債の部)</b>		
流動資産	11,647	10,008	流動負債	4,759	3,504
現金及び預金	2,907	2,090	買掛金	1,763	1,289
売掛金	3,712	3,986	短期借入金	1,000	1,000
商品及び製品	3,641	2,595	1年内返済予定の長期借入金	105	—
仕掛品	336	289	未払金	516	319
原材料及び貯蔵品	633	619	未払法人税等	288	73
繰延税金資産	108	108	設備関係未払金	615	314
その他	308	319	役員賞与引当金	8	16
			その他	462	489
固定資産	11,629	9,853	固定負債	4,238	2,696
有形固定資産	10,952	9,159	長期借入金	3,059	1,448
建物及び構築物	1,485	1,502	退職給付引当金	1,044	1,089
機械装置及び運搬具	4,092	4,539	役員退職慰労引当金	45	79
土地	550	544	その他	88	78
建設仮勘定	4,687	2,442	負債合計	8,997	6,201
その他	136	130	<b>(純資産の部)</b>		
無形固定資産	5	14	株主資本	12,679	12,367
投資その他の資産	670	679	資本金	1,500	1,500
投資有価証券	158	156	資本剰余金	1,013	1,013
繰延税金資産	412	414	利益剰余金	10,178	9,866
その他	100	108	自己株式	△12	△11
資産合計	23,276	19,861	その他の包括利益累計額	135	△8
			その他有価証券評価差額金	30	32
			為替換算調整勘定	105	△40
			少数株主持分	1,463	1,300
			純資産合計	14,279	13,660
			負債純資産合計	23,276	19,861

〈注〉記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。



## ■ 連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当中間期 (皇平成25年4月1日 皇平成25年9月30日)	前中間期 (皇平成24年4月1日 皇平成24年9月30日)
売上高	7,792	7,769
売上原価	6,093	6,538
売上総利益	1,699	1,230
販売費及び一般管理費	929	839
営業利益	769	391
営業外収益	14	37
受取利息及び配当金	2	22
その他の	11	14
営業外費用	53	43
支払利息	11	11
その他の	42	31
経常利益	730	385
税金等調整前中間純利益	730	385
法人税等	261	148
少数株主損益調整前中間純利益	469	236
少数株主利益	42	63
中間純利益	427	173

〈注〉記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## ■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	当中間期 (皇平成25年4月1日 皇平成25年9月30日)	前中間期 (皇平成24年4月1日 皇平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,266	1,765
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,956	△1,656
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,467	△1,514
現金及び現金同等物に係る換算差額	40	△82
現金及び現金同等物の増減額	817	△1,488
現金及び現金同等物の期首残高	2,090	4,066
現金及び現金同等物の中間期末残高	2,907	2,577

〈注〉記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

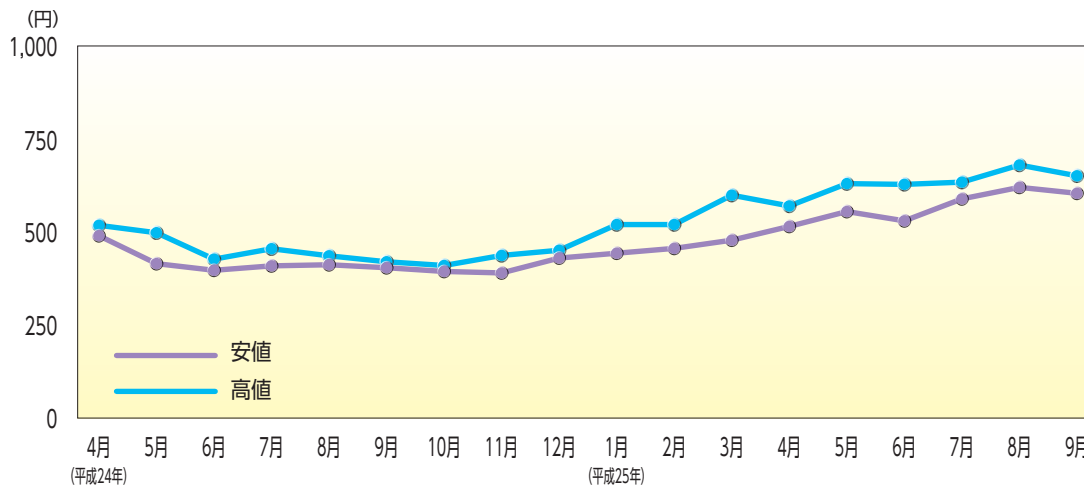
## 会社の概要 (平成25年9月30日現在)

**商号** 本州化学工業株式会社  
**証券コード** 4115  
**主な事業内容** 液晶ポリマー (LCP)、特殊ポリカーボネート樹脂及び特殊エポキシ樹脂などの高機能樹脂の原料、フォトレジスト材料、感光性ポリイミド材料、医薬品、農薬、ゴム薬品などの原料となる各種化学品の製造及び販売  
**資本金** 15億50万円  
**所在地** 東京都中央区京橋一丁目1番1号  
**本店** 八重洲ダイビル2階  
**和歌山工場** 和歌山市小雑賀二丁目5番115号  
**総合研究所** 和歌山市小雑賀二丁目5番115号  
**従業員数** 311名 (前期末比4名減)  
**ホームページアドレス** <http://www.honshuchemical.co.jp/>

**役員** 代表取締役社長 船越良幸  
 代表取締役常務取締役 福島俊之  
 常務取締役 津川和人  
 常務取締役 長谷川民清  
 取締役 塩見泰一  
 取締役 秋田大三郎  
 取締役 芦田芳徳  
 常勤監査役 川上康夫※  
 監査役 江川健志  
 監査役 松浦康治※

(注) ※印は、社外監査役であります。

## 株価推移



## 株式の状況 (平成25年9月30日現在)

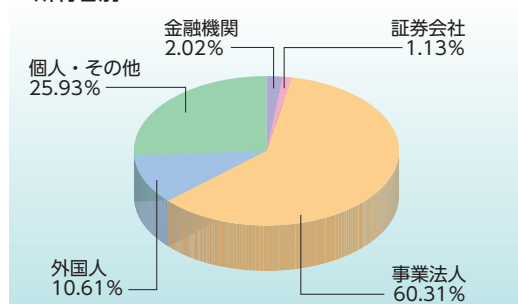
1. 発行可能株式総数 40,000,000株
2. 発行済株式の総数 11,500,000株
3. 株主数 1,285名 (前期末比82名減)
4. 大株主 (上位10名)

株主名	持株数	持株比率
三井物産株式会社	3,098 千株	26.98 %
三井化学株式会社	3,098	26.98
ビービーエイチフォーフィデリティロープライズドストックファンド (プリンシパルオールセクターサポートフォリオ)	900	7.84
種田修	291	2.53
日本スタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	205	1.78
アキ商会株式会社	200	1.74
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー 505224	200	1.74
学校法人田中育英会	170	1.48
大和産業株式会社	124	1.08
富士化学開発株式会社	115	1.00

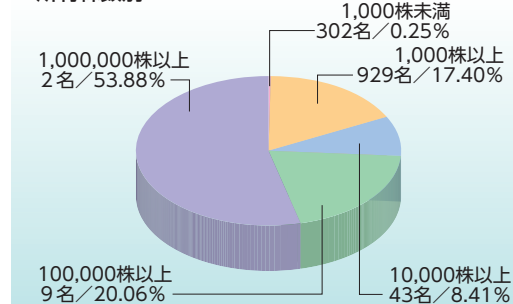
〈注〉持株比率は、自己株式(20,636株)を控除して計算しております。

## 株式の分布状況

### ・所有者別



### ・所有株数別





本州化学工業株式会社

東京都中央区京橋一丁目1番1号

電話 (03) 3272-1481

## 株 主 メ モ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月下旬
- 株主確定基準日  
定時株主総会 3月31日  
期末配当金 3月31日  
中間配当金 9月30日  
(中間配当を実施する場合)  
その他必要あるとき あらかじめ公告して定めた日
- 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社
- 特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社
- 郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
(電話照会先) 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)  
取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店及び  
全国各支店で行っております。

- 住所変更、単元未満株式の買取等のお申し出先について  
株主様の口座のある証券会社にお申し出下さい。  
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出下さい。
- 未払配当金の支払について  
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出下さい。
- 「配当金計算書」について  
配当金お支払いの際にご送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。  
ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社にご確認をお願いします。

■ 単元株式数 1,000株

- 公告方法 電子公告とし、下記ホームページに掲載します。  
<http://www.honshuchemical.co.jp/>  
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができないときは、日本経済新聞に公告します。

UD  
FONT

見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。

